

坂のある住宅地でのこどもの外あそびに関する研究
—雑司が谷を事例として—

21118061 村井 春菜
指導者 葉袋 奈美子 准教授

こども あそび 外あそび
坂 雑司が谷 道路空間

1. 研究の背景・目的

近年、こどもの体力・身体能力低下が問題視されており、その原因の一つとして外あそびの減少があげられる¹。

こどものそとあそびには時間、空間、仲間の「3間」が必要だといわれているが²、現代においてはどの「間」にも減少傾向がみられ、昔に比べこどものあそび内容も外あそびより室内あそびのほうが多くなってきている。³

昔と今の様々なあそび環境の変化はこどもたちの体力・身体能力を弱め、精神的な発達も抑制してしまっているといえる。

本稿では、現在のこどもたちが実際にまちのどのような場所、地形であそんでいるかを調査することで、こどもの豊かな成長につながる道路空間を有したまちの形成への指針を得ることを目的としている。

2. 調査の対象と方法

調査対象は住所が雑司が谷 1~3 丁目の道路空間^{注1}と公園、南池袋小学校近くの雑司が谷方面へ向かう通学路と近くの公園とする。

2014 年 10 月 27 日~11 月 3 日、11 月 17 日~30 日の期間中晴れの日、目視によるこどものあそび観察調査を行った。ルートは事前に定めたが、あそび現場を観察することを優先として対象地を歩いた。

調査はあそびが観察できた地点を地図に記入する方法で記録し、総数約 338 件のあそび現場と、延べ約 930 人のあそぶこどもの姿を観察することができた。

3. あそびの分類による比較

観察されたあそびをあそび方法とあそび場の形で分類し、坂でのあそびとあそび全体での割合を比較した。

3-1 あそび方法による分類

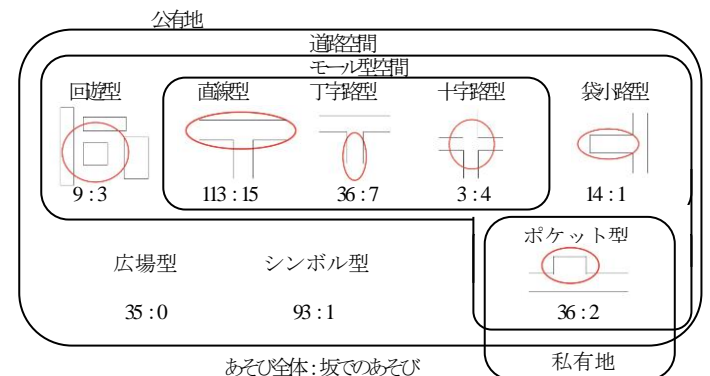
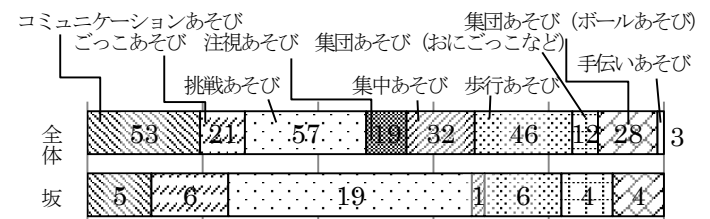
あそび方法は表 1 に示すように 9 種類のあそびに分類し^{注2}、その比較を図 1 に示す。全体のあそびの中ではコミュニケーションあそび、挑戦あそび、次いで歩行あそびが多く見られたのに対し、坂でのあそびでは挑戦あそびが他を引き離して最も多かったことがわかった。このことから、平地よりも、傾斜のある地形はこどもの挑戦意欲を促し、チャレンジ精神の成長にも影響を及ぼしているといえる。

3-2 あそびの空間の使い方による分類

あそびによる空間の使い方は、図 2 に示すように 8 種類に分類した。その分類結果の比較を図 3 に示す。あそび全体と坂でのあそびの両方で、直線型とシンボル型の場所でのあそびが多く見られた。直線型は車が来ているか遠くまで見渡すことができて安全を確認しやすいため、シンボル型は雑司が谷においてシンボルとされるものがほぼ遊具であり、公園の遊具でのあそびが多かったためだと考えられる。また、あそび全体に比べて坂でのあそびの割合が高かった空間は回遊型、丁字路型、十字路型だということがわかった。

表1 あそび方法による分類項目

あそびの種類	例
コミュニケーションあそび	おしゃべり、挨拶、歌う、じゃれる
ごっこあそび	なにかにになりきる
挑戦あそび	自分やお互いを試す、やってみる
注視あそび	なにかに興味を示す
集中あそび	動物と戯れる、DSやおもちゃなどであそぶ
歩行あそび	さんぽ、おでかけ
集団あそび	おにごっこ、おいかけっこ、かくれんぼ ボールを使ったあそび(サッカー、バスケ、野球など)
手伝いあそび	落ち葉掃き



4. 傾斜地で観察されたあそび

4-1 坂でのあそびの様子

傾斜地でのあそびの一例をイラスト1に示す。柵を足掛かりにしてどどめにのぼる、坂道をキックボードで滑り降りる、坂道の手前までの平らな道路空間でボールを蹴るなどしてあそぶ、傾斜があるために段差ができた路地でバドミントンをする様子などが観察された。また、坂道の近くのポケット型の空間である駐車場で、座り込んでカードゲームをする子どもの姿も見られた。これらのことから、坂道の近くは車が徐行するため、よりあんな子どもの遊び環境が形成されると考えられる。

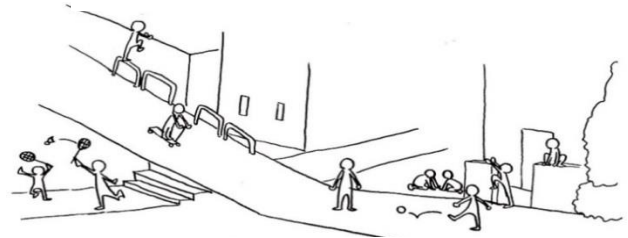
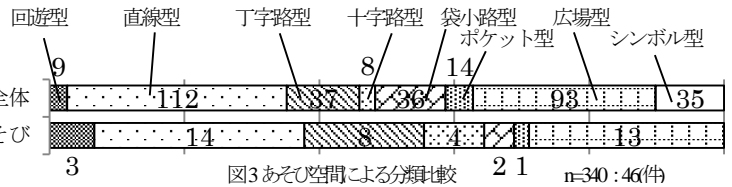


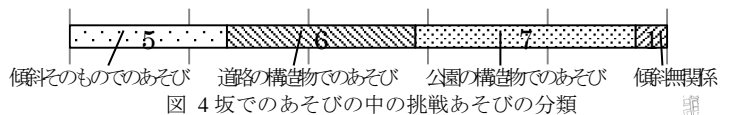
イラスト 1 傾斜地でのあそび一例
表2坂でのあそびの分類

空間例	
傾斜そのものであそぶ	坂道に続く平らな道であそぶ
12:5 道沿空間の傾斜による構造	6:0 公園の傾斜による構造
10:6 一段下がった路地	13:7 傾斜のある道路であそぶ
1:0	傾斜の有無に関係なく 観察されたあそび 4:0

その傾斜のある地形で見られたあそびを、あそびの場となった地形とあそばれ方により分類したものを表1に、雑司が谷にある坂道^{注3}と坂道でのあそびが見られた場所の分布を図5に示す。坂道で観察されたあそびは多くはないが、傾斜のある空間は多様な使われ方をしていることがわかった。また、数ある坂道の中でも比較的いつも同じ坂道・傾斜地であそびが観察され、こどもは自宅の近くや通学路など、自分の行動範囲内にある地形をいかしてあそんでいることが考えられる。

4-2 傾斜地での挑戦あそび

坂でのあそびは挑戦あそびが最も多いことがわかったため、その中でさらに分類を行ったものも図4に示した。傾斜そのもの、道路空間・公園の構造でのあそびの3種類で比較的多くの挑戦あそびが観察され、実際に傾斜を利用したあそびには挑戦あそびが多いことがわかった。



5. まとめ

坂のある住宅地において、こどもたちは傾斜を積極的に使ってあそんでいるとはいえないが、公園だけでなく道路空間でも自由にあそびを展開しているといえる。また、まちの地形をいかして坂道を滑り降りたり、傾斜を利用した構造物であそぶことで、こどもたちの身体能力、発想力、社会性等が培われていることが考えられる。地域の大人や違う年代の子どもたちの目があり、お互いに切磋琢磨することのできる道路空間などの身近な地形を使ってあそぶことは、こどもの精神的・身体的発達を得心するといえるのではないだろうか。木造密集市街地であり車の往来が少なく、地域の繋がりが比較的強い雑司が谷⁴は、こどものあそび環境として優れているといえるだろう。今後のまちづくりや道路環境の改善において、雑司が谷はこどものあそび環境を考える際に参考市街地となりえるのではないだろうか。

注1)道沿空間とは、公道だけでなく私道も含むものとする。
注2)仙田の分類方法を参考にし、実際に観察されたあそびの中で独自の分類を行った。
注3)2m感覚で等高線を引いた地図上で、勾配が約48%(27度)以上の道を坂道とした。



図5 雑司が谷にある坂道と坂でのあそびの分布

【参考文献】

- 1.子どもの体力の低下の原因 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijuku/attach/1344534.htm (2014/12/18)
- 2.とも環境学会「こどもが元気になる国づくり・まちづくり—こども環境学会の果たすべき役割と課題—」2014年
- 3.仙田尚「環境デザインの方法」朝倉社 1998年
- 4.三浦茜「集合住宅居住者の地域コミュニティへの関わり」雑司が谷を事例として2013年